

寺院

国指定重要文化財

来迎寺本堂



熊取町教育委員会

沿革

来迎寺の草創は詳らかでないが、寺伝によればもとは天台宗に属し、のち真言宗に移り元禄2年には曹洞宗梅溪寺の末寺となり、円覚山来迎禅寺と称した。

本堂は、嘉暦4年(1329)正月沙弥随善、沙弥妙法、宗平四郎、同三郎行貞、紀光女等が建立したと伝えられる。

もと雨山城に有って、城主橋本正高が八大竜王殿と称し、朝夕武運長久、繁栄安泰の祈願堂としていたと伝わる。

南北朝の頃に、後醍醐天皇が紀州粉河寺へ行幸の際に、城主が雨山城に御迎えし、宿舎にしたとも伝え、後年に至り雨山城より現在の位置に移築したとの説もあるが明らかでない。

のち応永年間に修葺したらしく、背面の隅鬼瓦に応永31年銘のものが現存し、又元禄2年には、本山梅溪山三世快山秀和尚(開祖)が修理を行わんとしたが不調におわり、享保3年に至り屋根修理を施している(大棟鬼瓦銘、棟札墨書)ことが判明し、年を重ねて安永7年冬、当時の住持五世が修理を志したが、この時も不調に終り、再び天明二壬寅年3月当時の住持六世悟峯和尚に至り、屋根の雨漏り腐朽が甚しく、住持が生家に走り、両親菩提のため資金を持ち帰り、屋根修理、内部の大改変を行ったことが棟札に記されている。

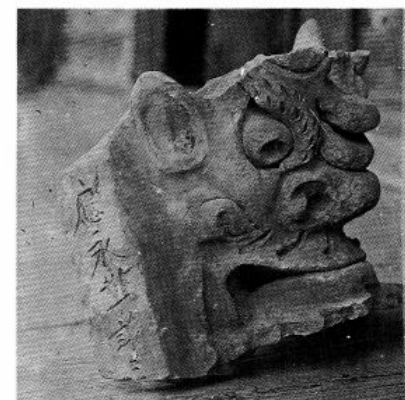
その後の修理は明らかでなく、今日に至った。

昭和24年5月30日重要文化財建造物に指定された。

昭和35年に解体修理を行う。

鬼瓦

応永31年(1424)の刻名があるものが最も古いもので、現在は下ろされて保存されている。現在使用されている大棟の鬼瓦には「享保戊戌三月吉日、佐野小川九右衛門尉」、棟冠瓦には「天明二年壬寅四月日佐野小河権吉」とへう書がされている。



応永三十一年銘ある鬼瓦